

体育系大学の1年生を対象とした中等教育における音楽の 学習内容の探索的調査

Exploratory Study of Music Learning Content in Secondary Education for First-year Students at the University of Sport Sciences

橋本智明¹, 山口恭正²

Chiaki HASHIMOTO, Yasumasa YAMAGUCHI

In this study, an exploratory questionnaire survey was conducted from the students' perspective to determine how many students have learned the instructional content of the Courses of Study regarding the study of music in secondary education. The purpose of the survey was to identify problems in the content of music learning, learning preferences, and enjoyment of music in secondary education. The results revealed two problems with music classes in secondary education. First, although the content of instruction was specified in the Courses of Study, there were areas that were not covered in the actual classes. Second, the percentage of negative responses, such as "did not like" or "did not enjoy" the music classes, was high in many areas.

キーワード : 中等教育, 音楽教育, 学習指導要領, アンケート調査

1.はじめに

中学校での音楽の学習内容は、中学校学習指導要領に基づいている。具体的には、音楽の基礎知識や技能、音楽の歴史や文化、音楽の表現や鑑賞などに分かれている。音楽の基礎知識や技能では、音符やリズム、和音や調性などの要素を学ぶ。また、歌唱や楽器演奏、創作などの実践的な活動を通して、音楽的な感性や表現力を養う。そして、音楽の歴史や文化では、日本や世界の様々な時代や地域の音楽を学び、音楽と社会や人間との関わりについて考える。中学校での音楽の学習は、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う」ことを目標としている（文部科学省、2007:61）。

高等学校では「芸術のうち『音楽I』、『美術I』、『工芸I』及び『書道I』のうちから1科目」が必修科目となっている（文部科学省、2008:5）。学習内容は中学校での学習内容との関連を踏まえ、イメージをもって表現、創作を行うものとなっている。鑑賞においても、作曲者、演奏者の特徴などより深い内容を扱うようになっている。高等学校

での「音楽I」の学習は「音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める」ことを目標としている（文部科学省、2008:76）。

このように、中等教育の音楽教育では、音楽の表現、文化、作品の評価について幅広く学習させなければならない。では、実際の教育現場において、これら学習指導要領に記載されている指導内容をどの程度指導しているのだろうか。

アンケート調査を活用した授業実践に関する研究は、大学の紀要、教育実践関連の学会論文誌などで散見される。また、教育現場の実態を把握するための授業内容に関する調査を行っている研究も散見される。例えば、石田ら（2014）は中学校での放射線教育の指導実施状況について、中学校理科教諭へのアンケート調査から明確化している。音楽に関しては、有本ら（2010）が2009年9月に義務教育における器楽教育に関する調査を行っている。この調査は全国の公立の小・中学校の音楽担当教員に郵送によりアンケートを実施したものである。調査内容は、楽器の所有、指導内容における器楽の配分、器楽で取り組む活動の内容、和楽器実技や電子楽器の活用など幅広く

1 仙台大学体育学部スポーツ情報マスメディア学科 准教授

2 仙台大学体育学部スポーツ情報マスメディア学科 助教

調査が行われている。だが、これらの調査は、ある特定の分野にのみ特化した調査となっており、教科全体を把握するものではない。

そこで、本研究では、この中等教育での音楽の学習について、学習指導要領の指導内容を生徒が学習してきたのか、生徒側からアンケート調査を行うことで、中等教育での音楽の学習状況、学習の好みや楽しさの関係など問題点を明らかにすることを目的とする。

2.調査について

2.1 調査対象および方法

本研究では、2023年5月および6月に、体育系大学の著者が担当する授業を受講した学生で、1年生178名を調査対象者とした。なお、本調査は授業内容とは関連のないものである。

調査対象者は、体育系大学であるため、スポーツに興味関心が強い学生が集まっている。体育系の大学の学生ではあるが、入学して間もない頃の調査実施であり、中等教育においては、普通科などの体育に特化していない教育環境で育ってきた学生が多い。したがって、学生の偏りはそこまで多いものではないと考えられる。

調査の際には、筆者が研究の目的、方法、対象者の保護等について説明した上で、対象者の同意のもと、Google Formsを活用して無記名のアンケート調査を行った。相関分析についてはHAD on18を用いた(清水, 2016)。

2.2 調査内容

本研究では、回答者の基本属性(性別、出身都道府県、出身高校の区分、出身高校の学科)、中等教育での音楽の学習分野に関して好み、楽しさについて調査を行った。音楽の学習分野については、中学校学習指導要領と高等学校学習指導要領を参考にして、学習分野の区分を行った。アンケート調査の対象者は平成20年3月告示の中学校学習指導要領、平成21年3月告示の高等学校学習指導要領が適応されている。そのため、調査の際は、これら学習指導要領を踏まえた調査票を作成した。

まず、中学校学習指導要領の音楽の指導内容(文部科学省, 2007:63-64)および高等学校学習指導要領の「音楽I」の指導内容(文部科学省, 2008:76)をもとに大きく学習内容を「歌唱」、「器楽」、「創作」、「鑑賞」の4つの分野に分け、更に、

「歌唱」、「器楽」、「創作」の3分野を個人かグループかで区分した。これらをもとに、各分野において「1好きではなかった～6好きだった」、「1楽しくなかった～6楽しかった」という2種類について6件法で調査した。これは好みと楽しさに関係があるのかを調べる意図がある。なお、学習していない分野については無回答にするように指示した。中学校についての質問を表1に示す。

表1 中学校に関する質問

Q	質 問
1	中学校での音楽の授業で「歌唱(独唱): 一人で歌を歌う」は好きでしたか。この領域の授業がなかった場合は無回答で結構です。
2	中学校での音楽の授業で「歌唱(独唱): 一人で歌を歌う」は楽しかったですか。この領域の授業がなかった場合は無回答で結構です。
3	中学校での音楽の授業で「歌唱(合唱): 複数人数で歌を歌う」は好きでしたか。この領域の授業がなかった場合は無回答で結構です。
4	中学校での音楽の授業で「歌唱(合唱): 複数人数で歌を歌う」は楽しかったですか。この領域の授業がなかった場合は無回答で結構です。
5	中学校での音楽の授業で「器楽(独奏): 一人で楽器を演奏する」は好きでしたか。この領域の授業がなかった場合は無回答で結構です。
6	中学校での音楽の授業で「器楽(独奏): 一人で楽器を演奏する」は楽しかったですか。この領域の授業がなかった場合は無回答で結構です。
7	中学校での音楽の授業で「器楽(合奏): 複数人数で楽器を演奏する」は好きでしたか。この領域の授業がなかった場合は無回答で結構です。
8	中学校での音楽の授業で「器楽(合奏): 複数人数で楽器を演奏する」は楽しかったですか。この領域の授業がなかった場合は無回答で結構です。
9	中学校での音楽の授業で「創作(一人): 一人で作曲を行う」は好きでしたか。この領域の授業がなかった場合は無回答で結構です。

10	中学校での音楽の授業で「創作（一人）：一人で作曲を行う」は楽しかったですか。この領域の授業がなかった場合は無回答で結構です。
11	中学校での音楽の授業で「創作（グループ）：複数人数で作曲を行う」は好きでしたか。この領域の授業がなかった場合は無回答で結構です。
12	中学校での音楽の授業で「創作（グループ）：複数人数で作曲を行う」は楽しかったですか。この領域の授業がなかった場合は無回答で結構です。
13	中学校での音楽の授業で「鑑賞：音楽を聴いて文化的・歴史的背景や、作曲者および演奏者による表現の特徴を理解する」は好きでしたか。この領域の授業がなかった場合は無回答で結構です。
14	中学校での音楽の授業で「鑑賞：音楽を聴いて文化的・歴史的背景や、作曲者および演奏者による表現の特徴を理解する」は楽しかったですか。この領域の授業がなかった場合は無回答で結構です。

高等学校については、まず、「音楽Ⅰ」の授業を受けていたかどうか、「はい」か「いいえ」で回答を求め、「はい」と回答した学生が質問に回答できるようにした。高等学校に関する質問は表1の「中学校での音楽」の部分で「高校での音楽」に変更したものとなっている。

3 調査結果と考察

3.1 中学校の調査結果と考察

中学校については、178名のうち149名が有効回答（有効回答率83.7%）であった。中学校に関する結果は表2、表3の通りである。

表2より、中学校において、調査した全ての学生が「歌唱」は学んでいたことがわかる。特に合唱については学習率が100%であった。そして、「器楽」は独奏が84.6%、合奏が87.9%の学習率となった。また、「鑑賞」は、学習率96.0%からほぼ全ての生徒が学んでいたことがわかる。しかし、「創作」は、他の分野と比べ、一人が36.2%、グループが34.9%と学習率が低いことが明らかとなった。中学校では学校行事として、合唱祭あるいは合唱コンクールが多く、学校で行われてお

り、卒業式においても合唱が行われている。その練習も兼ねて音楽の授業が活用されているため、「歌唱（合唱）」が高い学習率となったのではないかと推測される。

次に、各分野に対する好みや楽しさの意識に関するアンケートの結果が表3である。6件法の選択肢「1好きではなかった～6好きだった」、「1楽しくなかった～6楽しかった」において、1～3までをネガティブな回答、4～6をポジティブな回答として2つに区分した場合、この表3の集計結果から表4のような結果を得られた。表4から、「歌唱」、「器楽」は「独唱」、「独奏」より「合唱」、「合奏」の方がポジティブな回答が多いことがわかった。しかし、「創作」の個人、グループ両方と「鑑賞」については、ネガティブな回答が多いことがわかった。中学校では、全生徒が履修するため、習い事等で音楽活動に触れてこなかった生徒も多い。そのため、個人での演奏は人前での恥ずかしさや苦手意識などから、ネガティブな回答が多いのではないかと推測される。

次に、7分野の好みと楽しさについての分析を行った。スピアマンの順位相関係数を見ると、表5のようになり、有意な相関関係があることが明らかとなった。

最後に、中学校の音楽における、「歌唱」、「器楽」、「創作」、「鑑賞」の4分野のうち、各個人がいくつかの分野を学習したのかをまとめたものが表6である。表6から、4分野である「歌唱」、「器楽」、「創作」、「鑑賞」の中で、37.6%が全ての分野を学んでいるのに対して、残りの62.4%は学んでいない分野があるということになる。中学校学習指導要領においては、全ての分野を偏りなく指導することが示されている。しかし、実際の調査結果では、約6割の生徒が学んでいない分野があることが明らかとなった。

本来、全ての分野を学ばなければならないにも関わらず、実態としては、学んでいない生徒が多い状態となっている。その中でもとりわけ「創作」は低い学習率となっている。その原因として、指導の難しさが挙げられる。音楽の教員養成課程において、演奏を専攻している大学生が多く、創作を指導するための教育をあまり大学において受けてきていないため、教育現場に出た際に、「創作」の指導があまり行われな可能性もある。また、「創作」は教員の指導に関する負担も大きいことが予想される。このような問題から、教員の負担を減らしつつ、生徒に対して自由な発想で創作ができるような教材の開発が必要だろう。

3.2 高等学校の調査結果と考察

高等学校では178名のうち162名が有効回答（有効回答率91.0%）であった。この162名のうち「音楽I」を履修していた学生は65名であった。結果は、表7、表8である。なお、中学校と質問内容は同じであるため、中学校と同じQ1～Q14で表記する。

表7より、高等学校において、「歌唱」は独唱が67.7%、合唱が76.9%の学習率となった。「器楽」の分野については、独奏が73.8%、合奏が76.9%の学習率となっている。「鑑賞」は、95.4%の学習率となっており、一番高い学習率という結果となった。「歌唱」、「器楽」は、中学校と同様に、個人で演奏を行う場合が集団で演奏する場合よりも低い学習率となった。「創作」の分野に関しては、中学校の場合と同様に、全体的に低い学習率となっていた。

また、高等学校での学習に関しては、コロナ禍の影響もあったと考えられる。今回の調査対象となった学生の多くは自宅学習など登校しない期間があった学年である。渡会（2022）は、小学校を対象とした調査研究を行っており、コロナ禍の時期では歌唱禁止、吹奏系楽器の使用禁止という制限があり、「歌唱」、「器楽」、「創作」の表現に関する領域について制限があり、「鑑賞」を中心に授業を行わなければならないことを指摘している（渡会、2022:176-182）。このように、高等学校においても同様に、コロナ禍の影響も学習内容の結果に関係があったことが予測される。

中学校の場合と同様に、ネガティブな回答とポジティブな回答での分析を行った。その結果が表9である。ここでは、「歌唱（合唱）」、「鑑賞」の分野が好み、楽しさ共にポジティブな回答がネガティブな回答よりも若干多かった。「歌唱（合唱）」は、中学校と同様の結果であったが、「鑑賞」については、中学校では見られない結果となった。

高等学校においても、7分野の好みと楽しさについて分析を行った。スピアマンの順位相関係数を見ると、表10のようになり、有意な相関関係があることが明らかとなった。

最後に、高等学校における「音楽I」の「歌唱」、「器楽」、「創作」、「鑑賞」の4分野のうち、各個人がいくつの分野を学習したのかを表11に示す。

表11より全4分野を学んでいた学生は24.6%しかおらず、残りの75.4%は学んでいない分野が少なくとも1つはあることが明らかとなった。全4分野を学んでいた学生の割合は、中学校と同様

に低い割合を示したが、中学校よりもその割合は低下している。高等学校学習指導要領によれば、4分野を学校の実態に合わせて学ぶことになっている。しかし、実際は75.4%の生徒が、学んでいない分野があることが示された。

高等学校も中学校同様に学んでいない分野が多く、特に「創作」は低い学習率となっている。その原因は中学校の原因と同様であると考えられるが、更に授業時間数が少ない点も原因の一つではないかと考えられる。1年間しか履修しないため、中学校の時よりも授業時間数は少なくなってしまう状況である。授業時間数に対して、指導内容が多すぎる可能性があるのではないだろうか。

4 おわりに

本研究では、体育系大学の大学1年生を対象として中等教育における音楽の学習内容に関する探索的なアンケート調査を行った。その結果、中等教育における音楽の授業には、二つの問題点が見られた。指導内容が学習指導要領に明記されているにもかかわらず、実際の授業では触れられていない分野があるということ、音楽の授業に対する「好きではなかった」、「楽しくなかった」というネガティブな回答の占める割合が高い分野が多かったことである。そして、これらの二つの問題点に共通する分野が「創作」であることが調査結果の分析から示唆された。

今回は探索的な調査であったため、質問内容についてもまだ改善の余地があるだろう。特に、「創作」の分野はネガティブな回答も多く、学習率が低かった。そのため、その要因を解明する必要がある。そこで、生徒個別の事情が関連していることを鑑み、詳細なデータを収集するために、記述式回答の調査を行う。このように、質問内容を改善した上で、記述式回答も加え、更に大規模な調査を試み、詳細な分析を行っていく。また、今回の調査は、生徒目線であり、生徒自身の記憶に依拠している。よって、現場の教員に指導内容の調査を行った場合とは一致するとは限らない。したがって、今後は教員側からの指導内容、教員の意識、教員の価値観などの調査も行う必要があるだろう。調査から浮かび上がる問題の原因を解明し、解決策を提案することによって、音楽教育の内容の充実化を実現していきたい。

表2 中学校の7分野の学習者数の結果 (単位:人)

中学校	歌唱(独唱)	歌唱(合唱)	器楽(独奏)	器楽(合奏)	創作(一人)	創作(グループ)	鑑賞
学習有	129	149	126	131	54	52	143
学習無	20	0	23	18	95	97	6
学習率	86.6%	100.0%	84.6%	87.9%	36.2%	34.9%	96.0%

表3 中学校の学習内容の好みと楽しさのアンケート結果 (単位:人)

中学校	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
1	43	40	12	11	26	25	12	12	25	24	14	14	22	22
2	23	30	13	12	29	20	13	15	8	8	10	9	18	16
3	23	19	31	29	26	32	35	27	8	10	10	12	42	45
4	11	19	35	34	22	25	27	33	8	6	12	10	28	26
5	16	8	27	27	12	12	26	24	2	3	0	1	13	13
6	13	13	31	36	11	12	18	20	3	3	6	6	20	21

表4 中学校の音楽における7分野の好みと楽しさの結果

中学校	歌唱(独唱)		歌唱(合唱)		器楽(独奏)		器楽(合奏)		創作(一人)		創作(グループ)		鑑賞			
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合		
好み	ネガティブな回答		89	69.0%	56	37.6%	81	64.3%	60	45.8%	41	75.9%	34	65.4%	82	57.3%
	ポジティブな回答		40	31.0%	93	62.4%	45	35.7%	71	54.2%	13	24.1%	18	34.6%	61	42.7%
楽しさ	ネガティブな回答		89	69.0%	52	34.9%	77	61.1%	54	41.2%	42	77.8%	35	67.3%	83	58.0%
	ポジティブな回答		40	31.0%	97	65.1%	49	38.9%	77	58.8%	12	22.2%	17	32.7%	60	42.0%

表5 中学校における各分野の好みと楽しさの相関係数

中学校	歌唱(独唱)	歌唱(合唱)	器楽(独奏)	器楽(合奏)	創作(一人)	創作(グループ)	鑑賞
	好み	好み	好み	好み	好み	好み	好み
楽しさ	.907 **	.935 **	.934 **	.968 **	.993 **	.999 **	.922 **

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

表6 中学校における各個人の学習分野数

4分野	中学校	
	人数	割合
1分野	1	0.7%
2分野	18	12.1%
3分野	74	49.7%
4分野	56	37.6%

(4分野:歌唱, 器楽, 創作, 鑑賞)

表7 高等学校の7分野の学習者数の結果 (単位:人)

中学校	歌唱(独唱)	歌唱(合唱)	器楽(独奏)	器楽(合奏)	創作(一人)	創作(グループ)	鑑賞
学習有	44	50	48	50	18	17	62
学習無	21	15	17	15	47	48	3
学習率	67.7%	76.9%	73.8%	76.9%	27.7%	26.2%	95.4%

表8 高等学校の学習内容の好みと楽しさのアンケート結果 (単位:人)

高校	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
1	13	13	4	4	8	8	4	4	5	4	3	3	7	6
2	11	11	7	7	10	8	4	6	5	6	0	1	3	3
3	5	5	12	11	14	15	18	12	4	4	6	6	19	19
4	6	6	12	13	7	5	7	7	2	0	1	1	12	12
5	4	4	5	5	3	6	9	14	2	4	3	2	12	13
6	5	5	10	10	6	6	8	7	0	0	4	4	9	9

表9 高等学校の音楽における7分野の好みと楽しさの結果

高校	歌唱(独唱)		歌唱(合唱)		器楽(独奏)		器楽(合奏)		創作(一人)		創作(グループ)		鑑賞	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
好み	ネガティブな回答	29 65.9%	23 46.0%	32 66.7%	26 52.0%	14 77.8%	9 52.9%	29 46.8%						
	ポジティブな回答	15 34.1%	27 54.0%	16 33.3%	24 48.0%	4 22.2%	8 47.1%	33 53.2%						
楽しさ	ネガティブな回答	29 65.9%	22 44.0%	31 64.6%	22 44.0%	14 77.8%	10 58.8%	28 45.2%						
	ポジティブな回答	15 34.1%	28 56.0%	17 35.4%	28 56.0%	4 22.2%	7 41.2%	34 54.8%						

表10 高等学校における各分野の好みと楽しさの相関係数

高校	歌唱(独唱)	歌唱(合唱)	器楽(独奏)	器楽(合奏)	創作(一人)	創作(グループ)	鑑賞
	好み	好み	好み	好み	好み	好み	好み
楽しさ	.997 **	.993 **	.982 **	.969 **	.999 **	.999 **	.946 **

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

表11 高等学校における各個人の学習分野数

4分野	高校	
	人数	割合
1分野	5	7.7%
2分野	17	26.2%
3分野	27	41.5%
4分野	16	24.6%

(4分野:歌唱, 器楽, 創作, 鑑賞)

参考文献

- 有本真紀・根本愛子・小島千か (2010) 義務教育段階の器楽教育に関する調査. 音楽教育実践ジャーナル, 7(2):48-62.
- 石田菜摘, 杉田克生, 高橋博代 (2014) 学習指導要領改訂に伴う中学校での放射線教育の実態調査. 千葉大学教育学部研究紀要, 62:361-366.
- 清水裕士 (2016) フリーの統計分析ソフト HAD : 機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践における利用方法の提案. メディア・情報・コミュニケーション研究, 1:59-73.
- 文部科学省 (2007) 「中学校学習指導要領」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/_icsFiles/afieldfile/2010/12/16/121504.pdf (2023年12月8日参照)
- 文部科学省 (2008) 「高等学校学習指導要領」
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/03/30/1304427_002.pdf (2023年12月8日参照)
- 渡会純一 (2022) COVID-19 の状況下における学校音楽教育の授業実践について. 教職研究, 2021:169-188.